



抜けるような青い空と赤い岩屑
見渡す山は堅固で遥しく見えるが
私より歩く道は道では無い
誰一人先行する人も続く人も無い
昨夜まで都会にいた私が
今、どうしてこんな尾根を歩いているのか
私を見詰める山々に問いかけた
天狗岳への凄絶な登り
岩屑と岩塊が散乱し
誰かのように荒らしたものであろうか
赤茶けた岩屑を踏んでは仰ぎ見渡し
ピークからピークへ汗を流し
岩屑の突端が天狗岳の頂上
カレ場を下り鎖にぶら下る岩壁を蹴り
飛び降りれば天狗ノコル

朝から歩いて七時間
穂高岳山荘まではあと四時間の岩屑
赤いカレ場を登るルンゼから稜線に出れば
谷沢の転石が白々と輝き
上高地は深い緑に包まれ
帝国ホテルの赤い屋根が目立つ
眼下は灰紫の岩盤が盛り上がり
置岩の岩頭へせり上がっている
青く澄んだ空を切る岩頭
私は腕を不意にかまませながら
手繰るように攀じ登り
大きな笠のような岩の上に立てば
岩頭に当る風の音が
ピーンピーンと聴こえてくる

コブ尾根の頭からジャンダルムに向う
手づかみで登り詰めた北端に立てば
はるか先には槍ヶ岳が目を射る
北穂・通沢・奥穂・前穂と続き
明神岳の幾峰が尾を長くそびえ
穂高岳山荘は鞍部に隠れている
黒々と立ち並ぶ穂高の山
去り難い展望に見切りをつけ
身の毛もよだつロバノ耳へ下る
何本も連なる鎖で慎重に下り終え
鞍部からガウ場の山に登る

続く瘦尾根は二段の馬ノ背
断崖は両岸数百メートル切れ落ち
壮絶凄惨をきかぬ
恐竜の背中に登るごとく
スリルを越えた命かけの岩稜
三角の光る尖峰は奥穂高岳
三千百九十メートルは目と鼻の先
遂にきた厳しく遠く縦走路
夕日は赤く笠ヶ岳に傾き
山頂は私ひとりだけが立つ
上高地を出発してから九時間
吹く山の風は冷たく
北アルプスの山々は静寂に包まれ
私の健闘を慰めてくれるように見え
去り難い気持で何回も見廻しては
今日の風景を焼きつけて下りた